

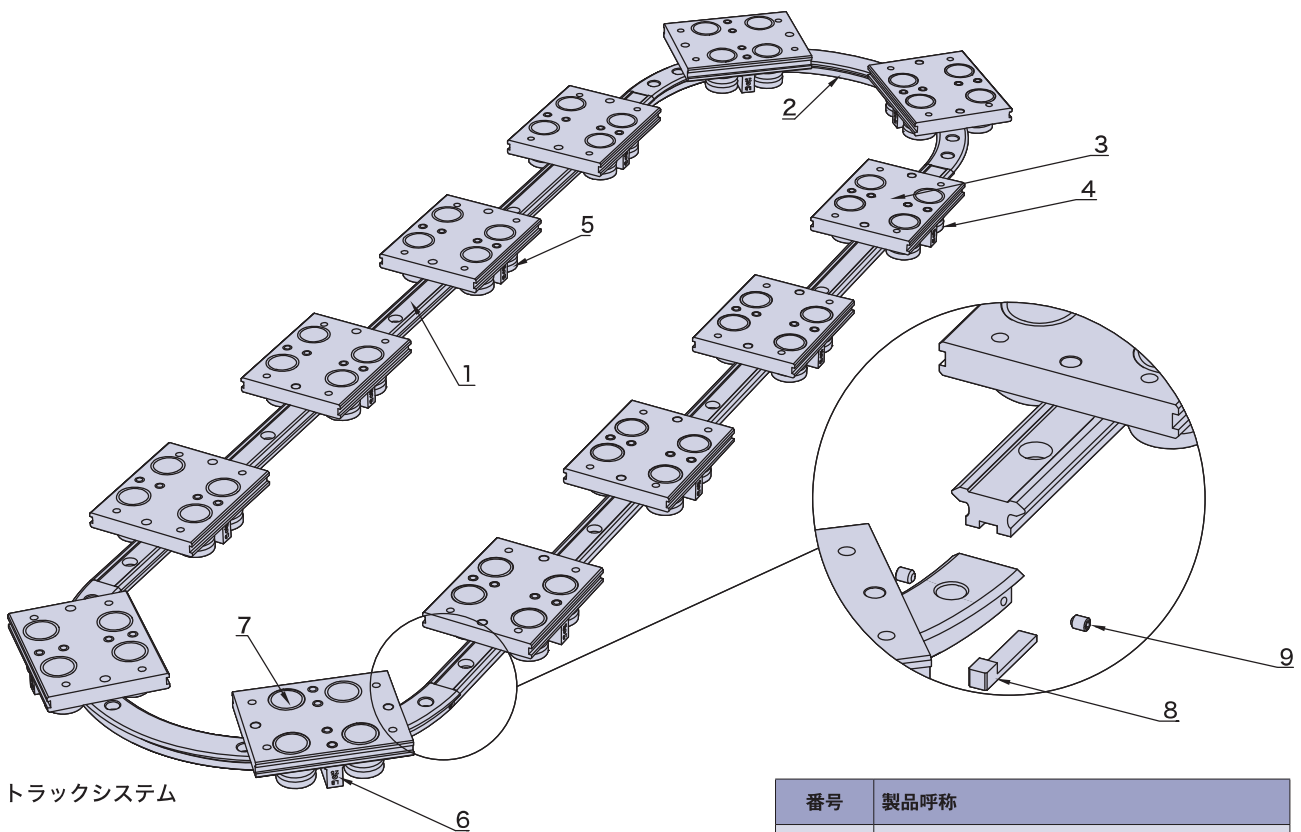


## PRT2 取り付け

ASK-HepcoMotion PRT2曲線レールおよびトラックシステムは、高い品質基準に基づいて製造されており、さまざまな仕様においてスムーズで正確な走行を実現します。

システムの精度を維持し、効率的に取り付けるため製品には基準面を設けています。曲線レールおよびトラックシステムは、機械加工された取付面に取り付けてください。以下に示すデータシートは、さまざまな取り付けおよび組み立てオプションの概要を示しています。組み立て寸法詳細は、📖 32-54ページに記載されています。

注意：トラックシステムは、レールつなぎ部の品質を維持するため切断面は鋭利になっていますのでご注意ください。

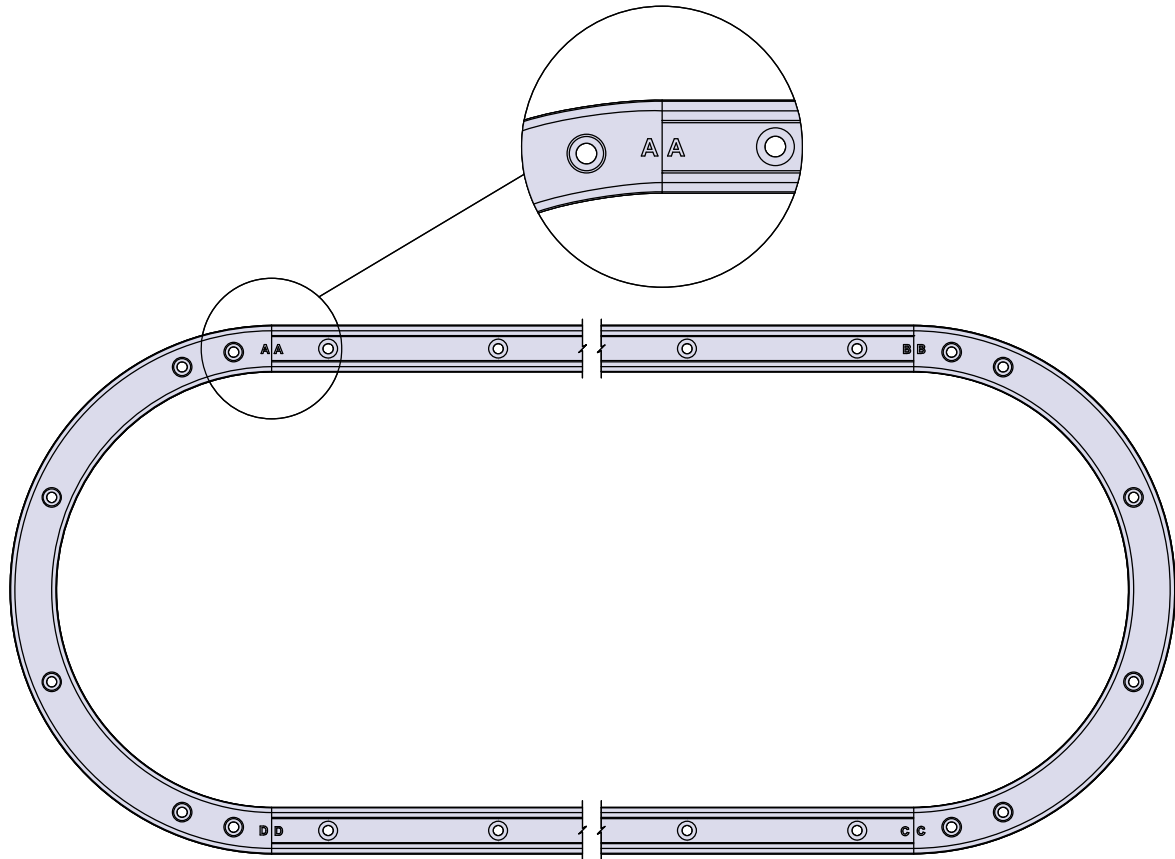


番号	製品呼称
1	トラックシステム直線レール
2	トラックシステム180°曲線レール
3	固定センターキャリッジプレート
4	偏心ベアリング
5	固定ベアリング
6	ルブリケーター
7	埋め栓
8	調整キー
9	調整ネジ

## PRT2 取り付け

トラックシステムの取り付けを始める前に、システム全体を所定の場所に仮配置することをお勧めします。部品の確認と以下に示すようにつなぎ部のマーク通り正しく配置されていることを確認してください。

トラックシステム取り付けの穴加工は、「前穴加工対応トラックシステム」をご指定されている場合を除き現合合わせを行ってください。



**注:**

組み立てにあたっては2本の直線レールが互いに平行であることが重要になります。また組み合わせ記号が正しいことを必ず確認してください。

## PRT2 取り付け

### 1. 1本目の直線レールのセッティング

- 1.1 真直度を確保するために、図1.1に示すように機械加工された基準面に直線レールをあてて位置を決めてください。図1.2に示すようにノックピンを使用してレールを取り付ける方法もあります。組み立て時にスライド位置を正しく維持できるようにノックピン用の穴を正確に加工してください。

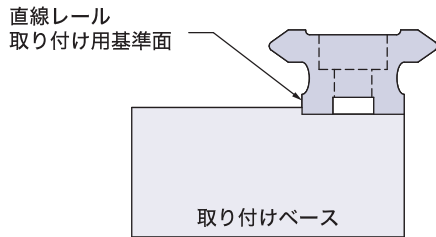


図1.1 基準面と位置決め

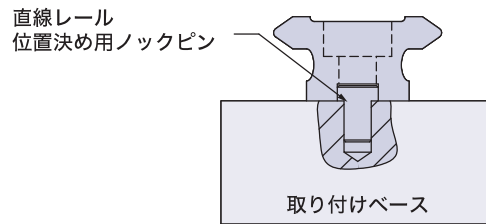


図1.2 ノックピンによる位置決め

- 1.2 ノックピンを使用する場合、図1.3に示すように、ノックピンはレール取付穴の間に一つ置きに配置してください。短い長さのレールを取り付ける場合は、最低2本のノックピンを使用してください。

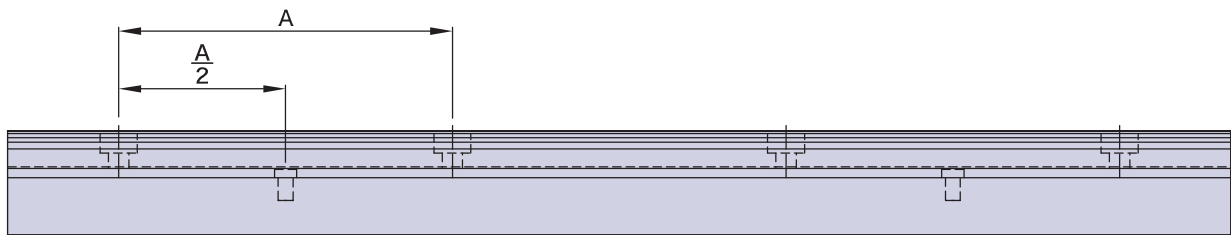


図1.3 ノックピンの使用位置

### 2. 1本目の直線レールの固定

- 2.1 図2.1に示すようにボルトの締め付けは直線レールの中央から始めて外側に向かって行うことをお勧めします。

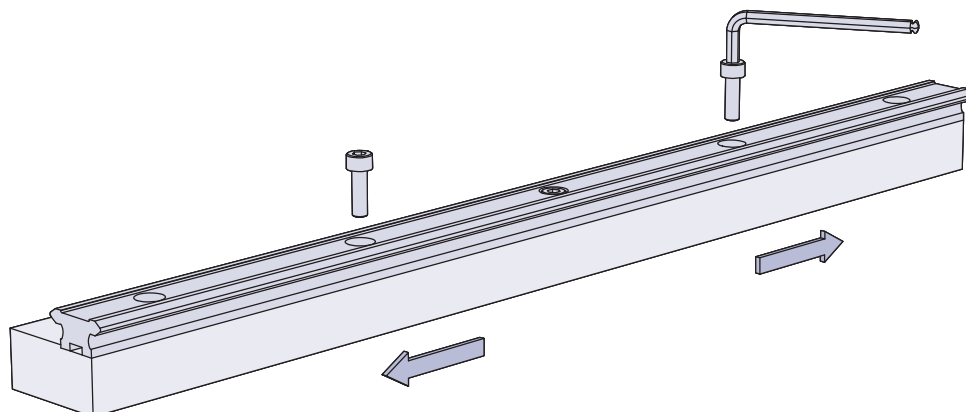


図2.1 締め付け手順

## PRT2 取り付け

### 3. 2本目の直線レールの取り付け

- 3.1 曲線レールが所定の位置に取り付けできるように、2本目の直線レールを取付位置及び2本の直線レールの並行度を管理しながら取り付けてください。基準面の設置またはノックピンの使用をお勧めします。

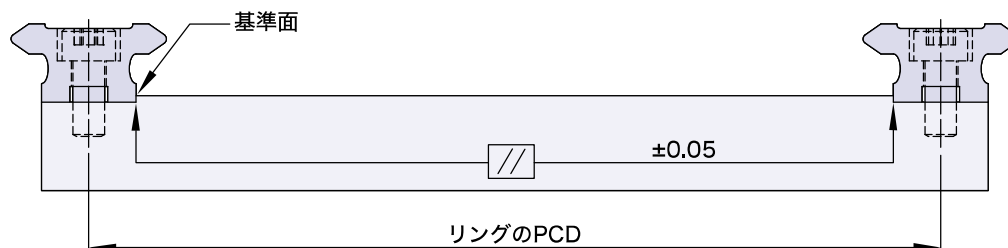


図3.1 レールの取り付け方法 1

- 3.2 ノックピンを使用して直線レールの位置決めを行う場合は、直線レールの片側を固定し反対側は「仮止め」状態にし、2つのキャリッジプレート適切なサイズの結合プレートに組み立てて、並行する直線レール上に配置し移動させることで2本の並行を管理することができます。(図3.2)



図3.2 レールの取り付け方法 2 (ノックピンの使用)

図3.3に示すように位置決め用部材を使用することもできます。位置決め用部材を固定レールに当て仮止めレールを位置決め用部材に押し当てることで位置を決めます。



図3.3 レールの取り付け方法 3

## PRT2 取り付け

### 4. 曲線レールの取り付け

- 4.1 直線レールが固定されたら、曲線レールを取り付けます。調整キーを直線レール底部の溝に挿入し、曲線レールを所定の位置に配置し仮締めします。(図4.1)。曲線レール底部の溝は調整キーの幅より大きいため調整ネジにより曲線レールの位置を調整することができます。

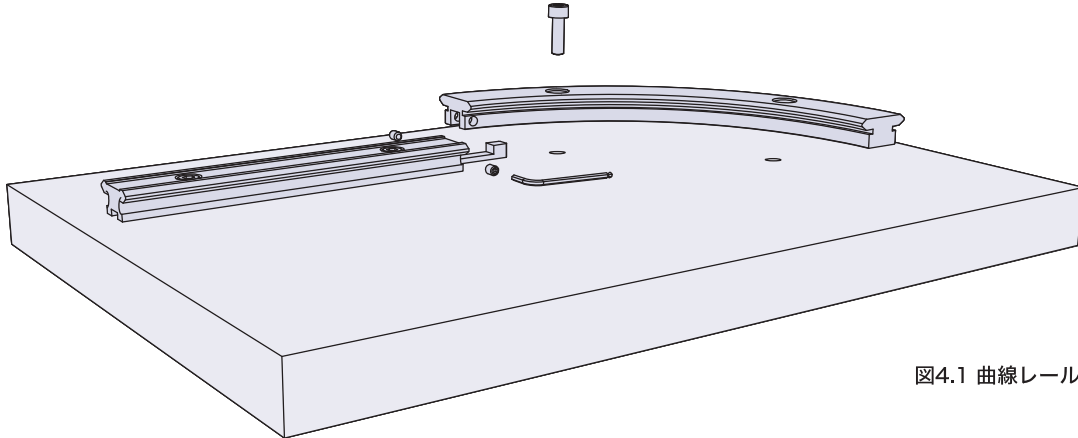


図4.1 曲線レールの取り付け

- 4.2 調整ネジを使用し曲線レール位置の微調整を行い、レールつなぎ部の軌道面を調整してください。(図4.2)

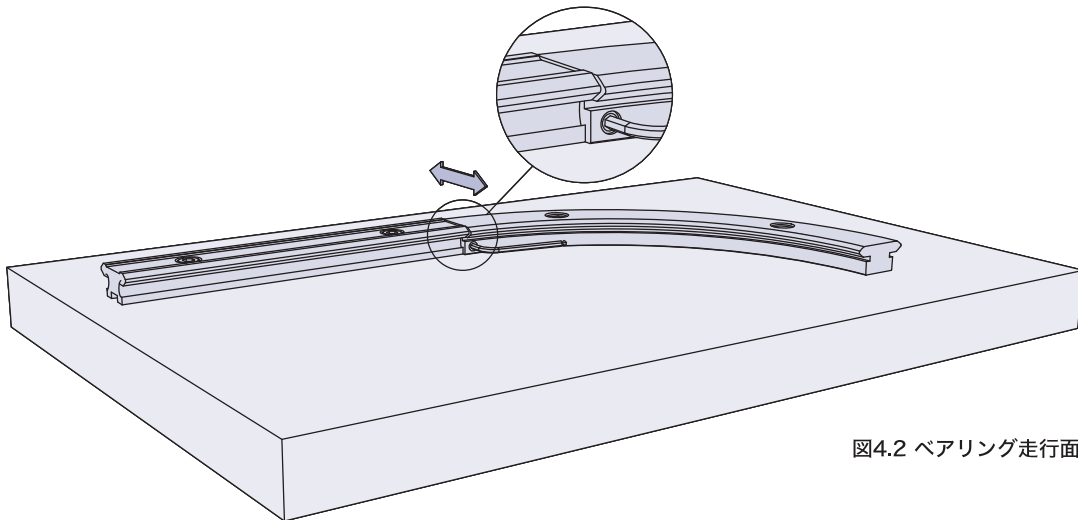


図4.2 ベアリング走行面の位置調整

- 4.3 所定の位置に取り付けた後、レールのつなぎ部軌道面を潤滑剤及びオイルストーンを使用して軽く磨きます。(図4.3)。キャリッジプレートを走行させて滑らかな動きを確認します。

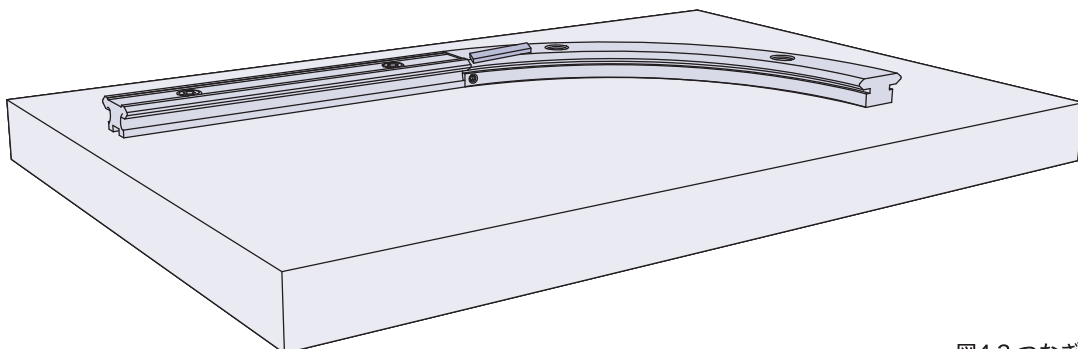


図4.3 つなぎ部の仕上げ

## PRT2 取り付け

### 5. キャリッジプレートの取り付け

5.1 キャリッジプレートを組み付ける前に、正しい向きであることを確認してください（図5.1）。標準的なキャリッジの場合、固定ベアリングはトラックシステムの内側に、偏心ベアリングは外側に来るよう組み付けてください。ベアリング間隔の短い方が固定です。

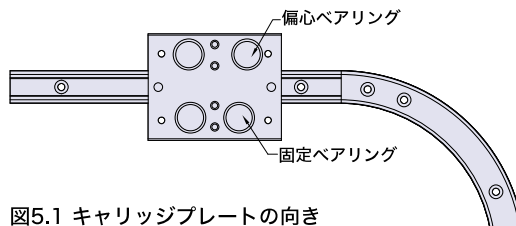


図5.1 キャリッジプレートの向き

5.2 キャリッジは予圧調整された状態で供給されます。最後の曲線レールを所定の位置に取り付ける前にレール上にキャリッジプレートを組み付けてください。ルブリケーターがキャリッジプレートに取り付けられている場合、キャリッジプレートをトラック上に組み付ける際はフェルトをルブリケーター本体に押し込んでください。輪ゴムなどを使用しフェルトをルブリケーターに押し込ませると簡単に組み付けることができます。使用した輪ゴムは切断して取り除いてください。

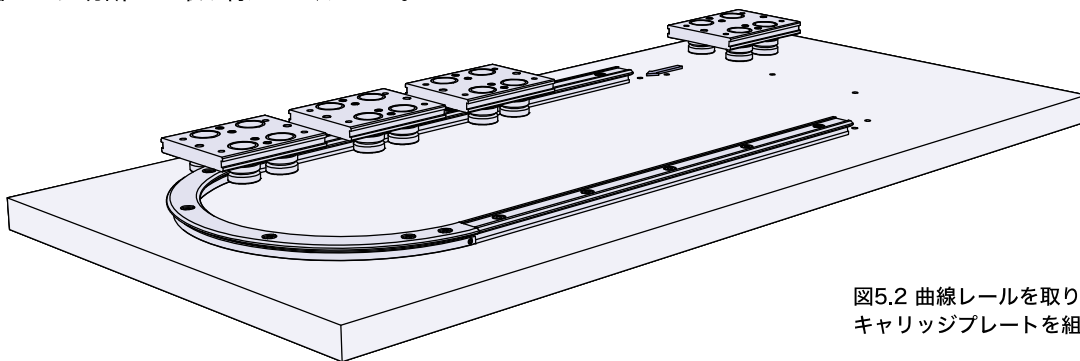


図5.2 曲線レールを取り付ける間にキャリッジプレートを組み付ける

5.3 既に組み付けられたトラックシステムにキャリッジを追加する場合などのようにレール端面からキャリッジプレートを挿入することができない場合は、偏心ベアリングの取り付けナットを緩めベアリングの軸を回転させ固定ベアリングとの距離を広げることでレールの上側から取り付けることができます。キャリッジプレートを取り付けた後必ず予圧調整を行ってください。この方法でキャリッジプレートを取り付ける場合は、ルブリケーターを一度取り外す必要があります。

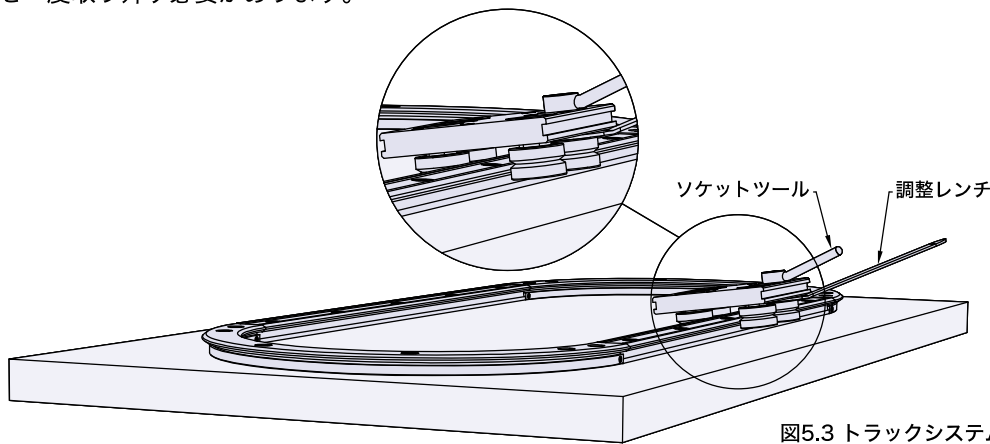


図5.3 トラックシステム取り付け後のキャリッジプレートの取り付け

5.4 キャリッジプレートの予圧調整は偏心ベアリングの軸を図5.4に示す矢印の方向に回転させて行います。逆方向に回転させ予圧調整を行うとキャリッジプレートは走行しませんのでご注意ください。詳細については 60ページをご参照ください。

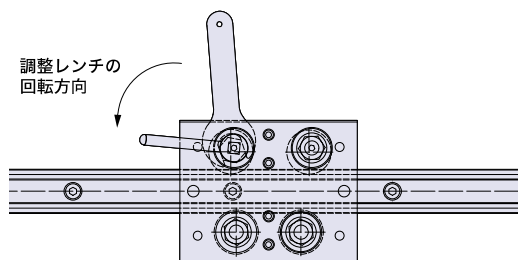
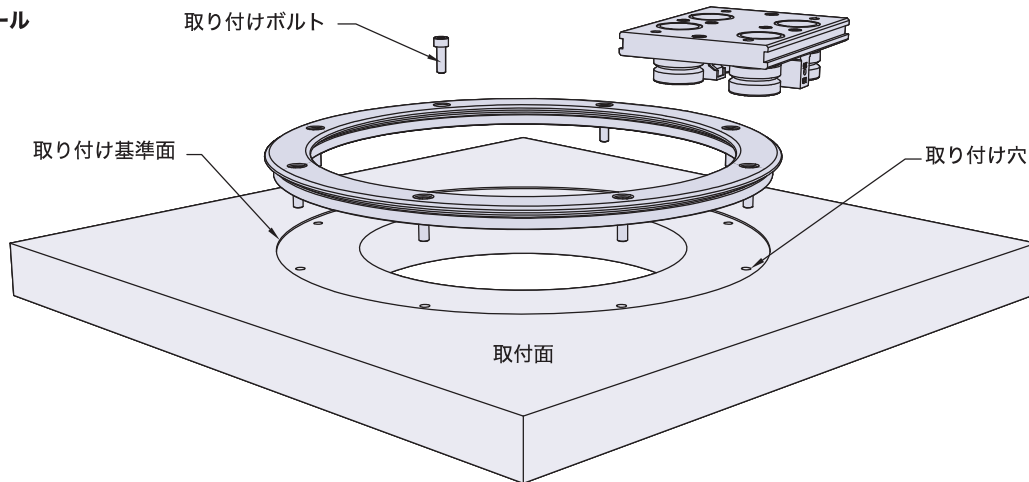


図5.4 予圧調整時のレンチ回転方向

## PRT2 取り付け

曲線レールは、システムにおいて固定要素または回転要素として使用することができます。固定要素として使用する場合は曲線レールの取付面に取り付け基準面を機械加工してください。曲線レールにはリングの内部と外部の両側に基準面を設けています。

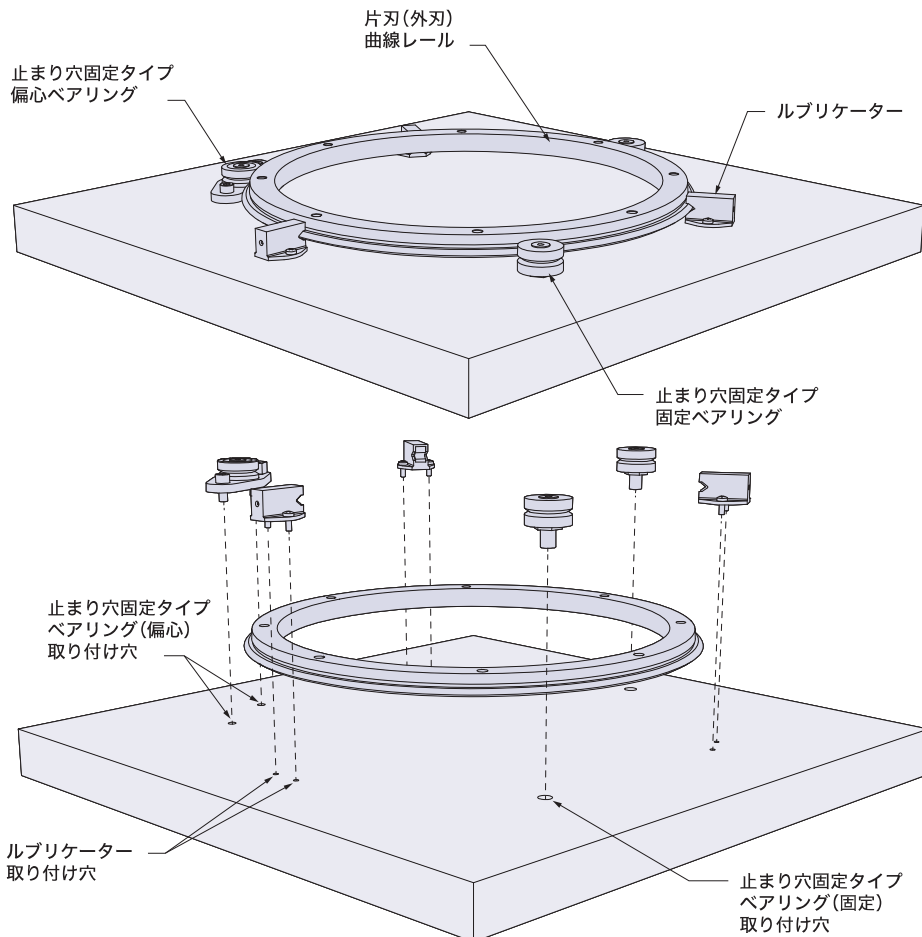
### 両刃曲線レール



曲線レールを回転要素として使用する場合、固定ベアリングの配置は重要な要素となります。固定ベアリングは2つとし120°の位置に配置し、他のベアリングはすべて偏心ベアリングにすることをお勧めします。

ベアリングの取り付けが取り付けベースの上方向からのみに制限される（取り付けベースの下方向からアクセスできない）場合は、止まり穴固定タイプをご使用ください。止まり固定タイプの偏心ベアリングは、以下に示すように上方向からベアリング位置を調整できるプレートを用意しています。

### 片刃曲線レール



## PRT2 取り付け

ベアリングの取り付けが取り付けベースの下方から可能な場合（取り付けベースの下方にアクセスできる場合）は、通し穴タイプベアリングを使用することができます。PRT2曲線レールおよびトラックシステムの偏心ベアリングは、以下に示すようにベアリングを外すことなくリングを取り外すことができるよう十分な偏心量を持っています。

